

<構成案>

1. 序論

1-1 行政の概念とその分析

1-1-1 行政学の対象と分析視角 cf. 本人代理人関係、水平的調整

1-1-2 行政分析の基礎—フッドの行政活動分析を中心に

1-2 統治構造の歴史的変容と行政学

1-2-1 統治構造の歴史的変容 cf. 行政国家、職能国家、福祉国家、準国家

1-2-2 行政学の成立と対応

1-2-3 新たな潮流：NPM（New Public Management）・NPG（New Public Governance）・電子政府（Digital Governance）等

2. 制度論

2-1 政府内制度設計

2-1-1 議会・行政府関係（政官関係）cf. 議院内閣制と大統領制

2-1-2 内閣制度と内閣機能の強化 cf. 政権交代とそのインパクト

2-2 政府間関係—国際組織・国・地方自治体

2-2-1 地方制度と地方分権

2-2-2 国際行政とそのインパクト cf. 機能的組織化、WTO、財政人事関係

2-3 政府社会関係

2-3-1 構造—民間組織を含むネットワークと政府と社会の相互作用

2-3-2 具体的諸相—民営化・民間委託と境界領域組織・NPO/NGO・独立行政法人

3. 組織・管理論

3-1 官僚制論・組織理論

3-2 日本の行政組織 cf. 内閣官房・内閣府、行政委員会、省庁組織の動向と国際比較

3-3 公務員制度と人事管理 cf. 数の動向、政治任用、事務官と技官、多様性・代表性

3-4 財政制度と予算編成 cf. 財政赤字との関連、調達制度

3-5 情報・知識の生産・流通・管理 cf. 統計制度、公文書管理、番号制度

3-6 ルールの制定・管理とその基盤的能力 cf. 内閣法制局、規制改革、ソフトロー

4. 活動論—政策過程とそのマネジメント

4-1 政策過程（政策サイクルと政策過程モデル）

4-2 アジェンダ設定—問題定義、フレーミングとアセスメントの役割

4-3 政策決定と合意形成

4-4 政策実施—第一線職員と対象集団の相互作用、政策ネットワークの自律性と変化のメカニズム

4-5 日本の省庁等における多様な政策形成過程の諸類型

4-6 政策評価

4-7 行政責任の確保 cf. パブリックコメント制度とその運用

<主要参考文献>

西尾勝『行政学・新版』（有斐閣）

真淵勝『行政学』（有斐閣）

曾我謙悟『行政学』（有斐閣）

<参考文献>

森田朗編『行政学の基礎』（岩波書店）

クリストファー・フッド『行政活動の理論』（岩波書店）

西尾勝『行政の活動』（有斐閣）  
 森田朗『新版・現代の行政』（第一法規）  
 村松岐夫『行政学教科書：第2版』（有斐閣）  
 伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学』（有斐閣）  
 Christopher Pollitt and Geert Bouckaert, *Public Management Reform (Fourth Edition)*,  
 Oxford University Press  
 大森弥『行政学叢書④官のシステム』（東京大学出版会）  
 前田健太郎『市民を雇わない国家：日本が公務員の少ない国へと至った道』東京大学出版  
 会  
 曾我謙悟『現代日本の官僚制』東京大学出版会  
 城山英明・鈴木寛・細野助博編『中央省庁の政策形成過程』（中央大学出版部）  
 城山英明・細野助博編『続・中央省庁の政策形成過程』（中央大学出版部）  
 磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック・地方自治（第3版）』（北樹出版）  
 城山英明『国際行政論』（有斐閣）  
 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎（新版）』（有斐閣）  
 西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』1－6巻（有斐閣）  
 ①行政の発展、②制度と構造、③政策と行政、④政策と管理、⑤業務の執行、⑥市民と  
 行政

## 1. 序論

### 1-1 行政の概念とその分析

#### 1-1-1 行政学の対象と分析視角

##### 1-1-1-1 行政とは何か？

### 対象

狭義：現代統治における官僚制集団（階統制組織、公務員集団）の役割

公的な官僚制組織の活動について考察する学、政府に関するヒエラルキー型組織の集  
 団行動について考察する学（西尾・行政学、47）

広義：社会管理＝機能

社会管理の視点：社会の一定状態を維持し、管理していくための技術・方法－古代か  
 ら（森田・現代の行政、8） cf. 監視・統制の視点－政治行政関係の視点

広義における2つの含意 cf. コモンズの管理

主体は官僚制に限定されず（民間主体等）

方法は階統制に限定されず水平的調整、契約等）

### ガバナンス

自律的な多数の主体が相互に協調し、多元的な調整を行うことによって安定した社会を  
 作り上げる（森田、205）－方法

政府部門と民間部門の関係という基本的部分に加えて、政府部門とサードセクターの関  
 係、さらに政府部門が腐敗しないための統制のあり方という2つを加え、これらを相対  
 としてとらえる概念（曾我・行政学、316）－主体

本人・代理人関係（曾我、18~34）

現代民主制：本人・代理人関係の連鎖 cf. 図1

政治家と官僚の間の分業

政治家は有権者の代理人であると同時に行政に対する本人という2重の役割

コントロールの課題：情報の非対称性、モニタリングの困難性

コントロールの手法：事前コントロール/事後コントロール、警察巡回型/火災警報器型

官僚制内部も本人・代理人関係の連鎖

垂直的關係 but 階統制のみならず契約等の方法も含む

本人の複数性—水平的調整が埋め込まれる契機 cf. 図2、図3 議院内閣制における連合形成@議会、大統領制における議会と大統領、政府と与党

「上流」本人の存在は、一定の自律性の支持基盤にもなる

分析次元

制度

管理—組織+4つの資源：情報・ルール・財源・人材

政策・活動

レベル cf. Multi-level governance

国、地方政府、国際組織

cf. 地域、国際社会における非階統制的手法の重要性 cf. 図5、図4

cf. 地方政府、国際機関—複数の本人という特徴（曾我、223） cf. 図4

国際機関←複数国家

地方政府←中央政府、住民

1-1-1-2 分析視角

政治学との関係

対象集団としての官僚制—本人・代理人関係における「下流部分」への注目

プロセス分析に際しての制度的・組織的文脈への着目—「制度論」との親近性

法律学との関係—運用への着目

憲法—政府論・統治機構論

行政法—行政法の法社会学という側面

経済学との関係

経営組織論⇔規模、業務の多様性、限定的競争

政策分析 cf. Cost Benefit 分析⇔プロセス分析、フィージビリティ分析、多次元的评价

公共選択論（Public Choice）

縦割り行政学（教育、公衆衛生等）と横割り行政学

行政学の特徴

実践志向と学際性（曾我、6）

政治学における分析視角：記述、説明（原因、帰結）

cf. 3つのI：利益、制度、アイデア（曾我、13）

